

**2021年度
熊本県コミッショナー講習会**

1. コミッショナーの役割

「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について」に示されている通り、ゲーム中はマンツーマンを監督・管理することが任務です。

①ゲームにおいて、マンツーマン推進を図るために、マンツーマンかゾーンかを見極める。

②起こっている事象に対して客観的に判定をする。

気になるところを声かけし、子どもたちが正しいマンツーマンでミニバスを楽しむことができるようにすることをコミッショナーの役割と捉えて任務にあたってほしいと思います。

2. コミッショナーの判定基準の考え方

コミッショナーは、ゲームの状況を考慮しながら判定を行うべきではなく、事象のみに対して客観的に判定する。

→心情やゲーム状況を考慮に入れながら判定することは、判定者の主観が大きく含まれることになり、判定基準の幅が広がることに繋がり、明確性に欠けることになるため。

コミッショナーの重要な視点

- 1) マッチアップしているか、またはマッチアップしようと敷いているか
(人=マンツー、場所=ゾーン)
 - オフェンスのスタート
 - カuttingに対して、適切にマークしているか(ついていっているか)
 - トラップの後
 - ペネトレーションに対するヘルプの後
 - 2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン(ボールとマークマン)を適切に実行しているか
- ※首振り、自分のマークマンを中心にしているか

違反があった時

(1) 赤旗について

「赤色(警告)」の旗が上げられた後、最初にゲームクロックが止まった時、またはボールのコントロールが変わった時に、マンツーマンコミッショナーはブザーを鳴らしてクルーチーフを呼ぶ。

【補足】

赤旗が上がったが、ブザーを鳴らずに速攻が決まった場合でも、赤旗が上がった時点で違反行為があったとみなし、赤旗が上がった時点までゲームを戻すため、ノーカウントとする。

※マンツーマンコミッショナーはボールのコントロールが変わった時のゲームタイマーの時間を記憶または記録しておく。

○1回目の赤旗は「警告」です。クルーチーフは、TO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、警告(1回目)であることを明確に伝える。

この間、アンパイアはコート内の選手を把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。コーチから選手に説明が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、説明を行わせた後、速やかにゲームを再開させる。

○2回目以降の赤旗は「マンツーマンペナルティ」となります。

主審はTO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、マンツーマンペナルティを宣する。

(相手チームに1本のフリースローが与えられ、そのチームのスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長上からのスローインで再開する。)

○マンツーマンペナルティはスコアシートのコーチの欄に「M」と記録する。(チームファウルに数えない)

○コーチに3回のマンツーマンペナルティが記録された場合、当該コーチは失格退場となる。

(2) テクニカルファールについて

黄色旗で声かけして指導してくれない時は、改善（選手のプレーについての改善）されていなければ赤旗を上げます。そこではコミッショナーから指導するように促すので、それでも指導してくれない時は、ゲームの運営の妨げになっていますので、テクニカルファールを主審が宣します。また、コミッショナーに対して、暴言等がある場合もテクニカルファールを主審が宣します。（インテグリティ）

- オフェンスが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りではない（「常に移動しなければいけない」ではない）。
- 制限区域内にオフェンスがいる時点では、「予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される」とあるが、あくまでトラップが許されるだけであり、トラップとは三原則に基づいたトラップのことである。

- ① ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- ② パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができるとき
- ③ 自分とボールをコントロールしているオフェンス側プレイヤーとの距離が約2～3mで、移動が容易にできるとき

- 試合が見渡せる場所（スコアラーステーブルの後方またはスコアラーステーブルの反対側）にコミッショナー席を置く。事前に両チームのコーチにはコミッショナー席の位置を伝えておく。
- メインコミッショナーは試合中、常に旗を持ち、立って行う。

試合開始前に記入をします。
 コーチ氏名は試合前に
 各コーチに記入をしてもら
 います。

※審判との打ち合わせがあ
 りますので、時間に余裕を
 もって行ってください。

赤旗があがった時に、記入しま
 す。クォーターや時間を確認し
 ましょう。警告内容はチェック
 項目を書くといいです。

マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書 2019/8/21 改訂版

1. 担当者

都道府県	コミッショナー氏名	コミッショナー氏名
------	-----------	-----------

2. 大会情報

大会名				試合区分	U12・U15 (男・女)
試合日	年	月	日	会場名	
チーム名	淡			コーチ氏名	
コーチ氏名	濃			コーチ氏名	

3. チェック項目 (下記のチェック欄に「○」または「×」を記入)

項目	内容											
1	マンツーマンディフェンスの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)											
2	ボールや相手と共に動いている。											
3	少なくとも、マッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。											
4	マッチアップエリア内のオンボールには1.5m以内を目安としてマッチアップしている。											
5	オンボールのトラップはよいが、トラップが終息したら直ちにマッチアップを開始している。											
6	ヘルプサイドのディフェンスがミドルラインをまたぎ越していない。											
7	オフボールの選手に対して、数的優位な守り方をしていない。(U15で予測に基づくプレーを除く)											
8	オフボールのオフENSEのポジションチェンジに対し、スイッチしていない。											
9	オフボールのディフェンスでは、マッチアップするプレイヤーを意識して移動している。											

【チェック欄】

項目	1P/1Q		2P/2Q		3P/3Q		4P/4Q		延長1		延長2	
	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												

4. 違反内容 (赤旗の上がった事象)

チーム	P/Q	時間	警告内容	備考

5. 特記事項 (故意的な違反行為等特に報告が必要な事項があれば記入してください。)

<報告・提出の流れについて> ①コミッショナー-競技会主催者
 ※特記事項がある場合: ②競技会主催者-都道府県協会のマンツーマンディレクター(および関連団体等)、③マンツーマンディレクター-JBA

試合が終わった後、シート
 はバインダーに挟んでおい
 て下さい。コミッショナー
 委員の方で最後集めます。

黄旗があがった時に、チェッ
 クをしていきます。
 ※赤旗をあげるときの材料にな
 りますので、こまめにチェッ
 クをおきましょう。